



役人から水を受け取る阿母志良礼役の女性(左) 28日、那覇市

若水、厳かに献上 首里城

国頭村辺戸区の大川でくんだ「若水」を首里王府に献上する伝統行事「首里城への美御水の奉納祭」(首里当蔵町自治会主催)が28日、那覇市の首里城で再現された。行事は1998年に復活したが、大川から首里当蔵町までは若水をバスなどで運んでいた。ことし初めて、大川から首里城まで約15・5キロの距離を参加者約70人が走り、手渡して運ばれた。

28日、住民ら40人余りが王府の役人やノロ、女官の衣装を身に着け、首里公民館から首里城まで練り歩いた。首里城正殿裏では役人が阿母志良礼に水を献上した。厳かに行われる儀式を地元住民や観光客らが見詰めた。

初めて練り歩いた金城愛子さん(32)は「長く住んでいたが、参加したことがなかった。貴重な体験を大切にしていきたい」と話した。

読んで
広がる
NIE

動画